

「地域づくりへ活かす婦人部運動」  
～今までもそしてこれからも～

都農町漁協婦人部  
山下キミエ

1. 地域と漁業の概況

都農町は、宮崎市と延岡市のほぼ中間に位置し、農業を主な産業とする人口約13000人、滝とくだものを看板に掲げる静かな町である。

くだものの中でも尾鈴ぶどうは特に有名で、現在、このぶどうを使った“都農ワイン”の開発が進められており、ワインの町として都農町が知られる様になるのも、近い将来のことではないかと思われる。

JR日豊本線の都農駅より、線路を隔てた東側に、私達の下浜地区がある。地区戸数245戸、うち漁家戸数は115戸、正組合員101名、准組合員30名、漁船数は130隻余りになるが、10t以上の船は2隻、残りは、5t未満の船で、小型延縄、一本釣を主体とする漁業経営である。平成6年度の組合員水揚げは、305百万円で、県下では小規模な漁協で、貯金残高は、1081百万円となっている。

2. グループの組織と運営

婦人部は、昭和32年5月に設立され、現在部員数は161名である。

主な活動としては、「子供をみつめる日の運動」「ムダとミエをなくす運動」「漁村のくらしを守る安全運動」「貯蓄運動」「漁協認識運動」を5本の柱としてとらえ、「婦人部5つの運動」として、活動を展開している。

3. 活動課題選定の動機

近年、地域の活性化、村おこし、町づくりといったことが、あちこちで強く叫ばれる様になった。こうした状況の中で、私達が従来より進めてきた婦人部運動が、今結果的に豊かな地域づくりの一翼を担うことへとつながったと思われる事例について、発表したいと思う。

4. 実践活動の状況とその成果

まず諸行事簡素化運動についての取り組みである。

私達婦人部が生活合理化を目指した諸行事簡素化運動の取り組みを始めたのは、昭和40年代前半のことであった。

当時、祝事は奇数、佛事の料理は偶数、それも10品以上の料理を手作りし、戸数にして100軒以上もの家庭に持ち廻ったものである。当然人手もかかり、又、経費も相当なものであった。こうした漁村特有の因習をいかにして打破するか、当時の役員さん達のご苦勞は並大抵ではなかったろうと思う。まず取り決められたのが、祝事の料理は5品以下、佛事は6品という事になった。

当時としては、随分思い切った改善であった。

この申し合わせを決める為に、漁協と婦人部との協議が何度となく開かれた。協議結

果をもとにアンケートを作成し、地区内全戸に配布、アンケート調査結果を集計し、地区内家庭の総意として、私達の「簡素化運動推進取り決め事項」が決定された。丁度15年前のことである。

これと前後して、町社会教育課を事務局に、町内各種団体が構成された「都農町生活改善推進協議会」が発足、色々紆余曲折はあったものの、私達漁協婦人部の取り決め事項と同様な「町内冠婚葬祭取り決め事項」が決定され、私達が率先して取り組んできた簡素化運動が大きく前進し、町内に拡がりをみせることになった。

簡素化運動を進める中で、私達には、婦人部が代々守り引き継いできたすばらしい財産がある。茶わん、湯のみ、お皿類から、なべ、釜まで、家庭行事に必要な台所用品一式を、夫々数を揃えて婦人部の備品として備えている。この台所用品、例えば、ガス釜一式500円といった有料で貸し出す訳である。家庭で揃える心配もなく、大変重宝がられている。

色々な申し合わせの金額が、時代に即したのかどうか、何度か見直し検討を行ったが、底辺を上げるときりがなくなるという事で、現在も当時の取り決めをそのまま参考にしている。

この申し合わせ事項は、毎年の婦人部総会において、再確認し合う様にしている。

こうした私達の諸行事簡素化運動は、当然、お返し廃止への呼びかけとして拡がっていった。かつては諸行事お返しの品々が、各家庭には置場もない程山積みしてあったものであるが、今では、見る事さえなくなった。お返しに代えて気持だけ、漁船海難遺児募金へとお願いしてきたのである。この成果を裏付けるものとして、都農町漁協窓口からの募金実績を聞くと、平成元年には3件であったものが、平成6年度は22件に達しているとの事である。勿論、地区内の方々全てが、海難遺児募金へという事ではないと思う。町の福祉事業へという方も多い様である。いずれにしても、かつての様にお返しの品々のやりとりがなくなってきた事は、簡素化運動の大きな成果だと役員一同喜んでいる。

次に長年にわたって取り組んでいる環境整備の取り組みについて申し述べる。

私達の漁協婦人部では、昭和44年から、毎月第3日曜日を清掃日と決め、下水掃除や、海浜掃除を行っている。

地区内の様子も、現在では、環境集落整備事業によって整備され、大きく様変わりし、昔の面影をとどめる物はほとんど見当たらなくなった。

港内は、埋立が進んで船着場と変わり、その分土砂を埋めた場所は、当然雑草地と変わっていった。

当初は清掃にカマ等不要だったものが、今では清掃道具も、カマ、草カキ等となり、更には草刈機も用意しなければならなくなった。こうした道具は婦人部の備品として購入し、作業に支障がない様にしている。

この作業も、今では第3日曜日の地区住民総出の定例行事として、定着をみせている。

こうした私達の取り組みが、町からの推薦により、宮崎県道路利用者協議会から、道路の環境美化推進団体として、平成2年8月に感謝状を頂いた。-環境整備-地域住民としては、当然のことかも知れないが、婦人団体としてはめずらしいことだと言われている。このことは、第3日曜日の清掃取り組みに、大きな励みを与えたものと思ってい

る。これからも地域の行事として精出して参りたいと皆んなで話し合っているところである。

又、合成洗剤追放運動にも、他の婦人部同様、昭和50年から取り組んでいる。今では石けん使用率は、毎年12月末の調査によると、80%台から90%台と一応定着をみていると思っている。

この石けん使用運動に関して、ある人の言葉がヒントになり、現在取り組んでいる事がある。家を新築した人が、一生に一回だと思うから、お世話になった人に、ほんの気持だけお礼をしたい、それには婦人部の進めている石けんを贈るのが一番いいと思う、何かセットで安く済むものは出来ないものかとの相談を受けた。そこで漁協事務局とも話し合い、普及の低調だった台所用石けん等のつめ合わせ用の箱を準備したらということになり、平成3年に、ご覧の様な贈答用石けん箱を作成し、漁協購買部に置いてもらう事にした。今では大変好評を得ている。

## 5. 波及効果

小さな集落、地域での活性化は、そこに住む単位団体、単位婦人部の活動がどう行われているかで決まるのではないかと考えている。

しかしながら、町の活性化、いわゆる町おこしとなると、当然、町全体の住民の意識をどう盛り上げていくかにかかっているのではないかと思う。

都農町でも、町の活性化へ向けて、色々な行事が企画・実行されている。

町には、4つの婦人団体がある。JA婦人部、商工会、地域婦人部、それに漁協婦人部である。

この4団体が協調し、同じ気持になって、行政と一緒に、町の活性化の為に、それぞれの地域において、活動することが、町全体の発展につながっていくものではないかと思う。

私達、都農町漁協婦人部にも、当然、町からの行事参加の要請が来る。

このことは、かつては地位もなかったと思われる漁家の婦人、いわゆる漁協婦人部が、行政に認めてもらえる様になった証だと考え、どの様な呼び掛けにも、部員161名を代表し、部長として、あるいは幹部の皆さん方と共に、必ず参加する様にしている。

都農町ふるさと自慢フェスティバル、都農町夜なべ討論会、青少年健全育成町民会議、新ひむかづくり町民会議、町づくり研究委員会、生涯学習専門委員会、交通安全父母の会、町女性リーダー研修会、平成5年12月に姉妹都市としての調印が終わった沖縄県糸満市婦人交流会への参加、都農町神社夏祭り、都農町ひょうすんぼ祭り、それに都農町ワイン試飲検討会。このワイン試飲検討会は冒頭でも述べた通り、現在、尾鈴ぶどうを原料に、都農ワインづくりが進められている。試飲会には、必ず魚食普及の為、魚料理を持参することになっているが、ここで、ワインを使った魚料理を都農町の特産として研究してみたらという言葉も頂いており、漁家の主婦として、大きな励みとなっている。頭では色々考えているところである。

この様に、様々な会合に婦人部代表として出席させて頂き、情報を得て、その情報を下浜の婦人部の皆さん方へ伝えていくのが、浜の活性化の一つにつながっていくものだと考えている。

## 6. 今後の活動計画と問題点

私達の下浜地区には、都農町では唯一のみなと児童館がある。かつては保育所の役割を果たしていた。漁協と隣り合わせの土地に建てられている。

私は幸いにも、この児童館の児童厚生委員の役目も、町より頂いており、午後からは、毎日、児童館につめている。

今、地域教育ということを知る。地域のみんなが声をかけて、子供達を見守っていくということであるが、私はこの児童厚生委員の立場を大いに利用させて頂き、婦人部の皆様と共に、下浜地区、小学生47名、中学生49名、だんだん少なくなる地区の子供達の為に、時代に合った地域行事を、下浜地区子供会育成会と連携をとって、実施して参りたいと考えている。

更に、高齢化が進んでいるこの地域にあって、今後何をなすべきか、私達が高齢者となっていくことを考えた時、何をしていけばいいのか、部員皆さんと話し合い、お互いが助け合える地域社会づくりを目指して、新たな活動を起こして参りたいと考えている。

そして、下浜に住む皆さんが、いつまでも下浜で活らしていきたい、ここで育った皆さんが、この下浜が古里で良かったと、いつまでも思える様な下浜地域づくりを目指し、努力して参りたいと思っている。